

2日目：活動見学 『中野保育所』

ぴん芸術士

テーマ 『もくもくと…』

- ・ドライアイスを使った活動
- ・3歳児クラス 26名

稲荷山に雲が下りているのを不思議に思った子どもたち。そんなみんなともくもくで遊ぼう。コポコポという雷の音が聞こえる。ストローで吹くと雲が無くなる！カラフルな「光のもと」で、もくもくに色をつけよう！きれいやあ〜 幻想的な世界って、こんなことなんだ。

※ 部屋の窓を開け、十分に換気に気をつけた上で活動をしています。



インターン生の声

・芸術士の活動は思っていたより「特別」ではなかった。イベント的なワークショップではなく、日々の日常の中に活動があった。

・水を使った活動なので、子どもたちの服や教室の床が濡れるのではないかと、そうなるかと後片付けが大変だなと心配になった。こういったギリギリを攻めた活動は保育所と芸術士の関係性があるからこそできる活動だと思った。施設とのコミュニケーションの大切さが分かった。

・自分が子どもの頃に通っていた保育所とは違う。保育所にアーティストがいるということは、そこにたくさんの価値観を持った人がいるということだと感じた。子どもにとってとても良いことだと思った。

2日目：活動見学 『勅使百華こども園』

モーリエール瞳 芸術士

テーマ『みんなで一緒にあそびつくそう』

- ・ボディペイント
- ・4歳児クラス 20名

青い絵の具を使ってボディペインティング。散水ホースに集まるみんな。机に溜まった色水をかき集めるうち、テーブルの穴からドリンクバーのように落ちてくる！「じゃあ次私！」「次変わって」上からかき集めて落とすひと、下でお水を貯めるひと、面白いこと大発見！遊びは子どもたちによってどんどん進化していきます。



インターン生の声

- ・流れを読みながら次々に道具を出す芸術士と、どんどん新しい遊びを見つける子どもたちの創造力が衝撃的でした。
- ・保育者はねらいや指導計画を綿密に計画してから関わるのに対し、芸術士はその場の雰囲気や状況を大切にする、両者の立場の違いを感じた。芸術士は子どもたちや先生方に風をおこして過ぎ去っていく存在。親でも保育者でもない第三者である大人と遊ぶということは子どもにとって意味があることだと感じた。
- ・瞳芸術士には初めてお会いしたがすぐに遊びに混ぜてくれて、子どもたちと絵の具を付け合せて遊んだり、コップに溜めた水を「まほうのみず」と言ったり、楽しい時間だった。活動後の振り返りの時間に芸術士から具体的な話が聞けて良かった。活動後の「余韻」を大切にしているという話が勉強になった。

3日目：芸術士のアシスタントとして 個別実践・ドキュメント制作

3日目は、現場で芸術士と共に活動に入ってくださいました。この日の活動の経験をもとに、ドキュメント制作もしていただきました。芸術士は1日につき1枚のドキュメントを作成します。ドキュメントとは、芸術士が子どもたちと過ごす中で拾い上げたつぶやきや表情などを、写真や文章等でまとめたものです。その場にいなかった第三者にもそこで起こっていたことや生まれていたこと、子どもたちの感性を伝える役割を担っています。

今回参加して頂いた6名の3日間のインターンを終えての感想と、インターンシップ生によるドキュメントをご覧ください。

芸術士という活動に今回参加をさせて頂き実際に見てお話を聞く中で文面だけでは得ることができない知識や技を知る事が出来ました。特に印象深かったのは3日目の活動です。子どもたちと一緒にボディペイントをする、という内容でしたが材料はボディソープとチョークという普段は思い付かない組み合わせの素材でした。準備の段階で子どもたちはコレを出すとこんな反応をするかな？そしたら水は無い方がいいかな？などそこから起こる行動を予測し、最初から全てを出してしまうのではなく子どもたちが気づいて使う。又はこんな道具があれば！という発想と気づきを大切にしているとわかりました。

先生や保護者とはまた違う立場の芸術士の方はこどもたちにニックネームで呼ばれる事が多かったです。それは子どもたちを活動を通してこうなさい。完成はこれと指導するという立場ではなく同じ位置で手を繋いで時には悩みや好きな事を聞きながら目的を達成していくことや、普段の生活では難しい子どもたちが思い切りやりたい事を想像できる時間を過ごすこと。いわば空白を作ることを大切にしているという芸術士さんの意識からきているのかなと感じました。

私自身も現在保育を学んでいる中で子どもたちとの接し方や考え方について悩む事はとても多いです。伸び伸びとした個々の特徴を伸ばしていきたいという反面、保育者という立場から教育をせざるを得ない状況もあります。どちらも補って行くことはとても難しい問題だと日々感じていましたが活動を通して改めて感じました。だからこそ私はこの芸術士の活動がもっと広く知れ渡り広がってほしいと思います。家庭や園の時間とはまた別の芸術士との時間が入ることで子どもたちにも社会にとっても良い方向に進むと思います。子どもたちの無限の可能性を引き出し子どもたちの感性と創造力を最大限に引き出せる芸術士だからこそ出来る関わり合いがとても重要だとこのインターンシップを通して思いました。

インターンシップ生 矢野夏音



ワクワク

ドキドキ



ぷ〜



ぺたぺた



MATSUSIMA nursery school 2023-8-25 FRIDAY
"bodypainting"



"Let's Paint"

ボディペイントでは絵の具作りから始めました。一生懸命パステルを削ってボディソープを入れてみると・・・不思議！絵の具みたいになっちゃった！それをベタベタ指につけてマニキュアみたいにしてみたり、お水を入れて泡立て器でカシャカシャ混ぜると、どんどん泡が立ってきて綺麗なシャボン玉が生まれたりしました！最初はボディペイントと聞いたこともたちは「うーん汚れるのは嫌かなあ」「どうしょー」と少し困った様子だったけれどいざ始めてみると、スポンにカッコイイ赤い車を描いていたり、葉っぱにベタベタ色をつけてカラフルにしたり、お顔や髪にもベタベタ・・・ピンクや青、むらさき、黄色、皆さんがどんどん素敵なカラフルに染まってく様子がとても素敵でした！すると気づけば私もベタベタと小さな手で色をつけてくれていました。終わる頃には皆さんカラフルで私も赤や黄色で素敵にしてもらいました！どんだん色んな色の絵の具を作って遊んでいるとお水のシャワーがある事を発見！！なかなかボディソープだけでは泡立たない子もお水を入れてみると、どんだんモコモコ泡が生まれてきて楽しく楽しそう！水溜りにも皆さんで作った絵の具たちが混ざり合って虹色が出てきました！と教えてもらいました。泡の中で飛んだり跳ねたり沢山の遊び方を教えてくれて皆さんありがとうございます！

芸術士インターンシップ 矢野 夏音



ゴリゴリ